

「宮崎県過疎地域持続的方針(素案)」に関する御意見及び県の考え方について

No	該当ページ及び該当項目	御意見の内容	県の考え方
1	<p><21ページ> 1 過疎地域の現状と問題点 (10) 子育て環境、高齢者等の保健及び福祉 ① 子育て環境</p>	<p>「就学前児童に限らず、放課後児童の健全育成を含めた幅広い保育対策」は共働き家庭や母子家庭が増加している現代に適したとても重要な視点だと思いました。 障がいを持つ子どもは、病院や施設の関係で中山間地域では子育てが難しいイメージがあるので、障がいを持つ子どもの中山間地域の子育て環境に対しては、どのように取り組んでいるのか知りたと思いました。</p>	<p>本県の障がい者施策の基本計画である宮崎県障がい者計画では、過疎地域を含め「障がいのあるなしによって分け隔てられることなく地域でともに生きる社会づくり」を目標に定め、子育て環境の充実にもつなげる障がい福祉サービス事業所等の計画的な設置促進などを進めております。 就学前の障がい児を対象とした児童発達支援や就学児を対象とした放課後等デイサービスの事業所は全県的には増加傾向にありますが、過疎地域など事業所がない町村もあることから、より身近な地域で障がい種別や年齢の別に応じた良質な支援が受けられるよう、市町村等の関係機関と連携しながら、開設促進に向けた指導・助言を行うとともに、各種の研修などを通じて障がい児支援に携わる人材の育成などに取り組んで参ります。</p>
2	<p><29、30ページ> 2 過疎地域持続的発展の基本的な方向 (1) 過疎地域持続的発展の基本的考え方 ②「くらし」</p>	<p>宮崎ひなた生活圏づくりの項目の箇所について疑問を抱きました。 資料に見られるような生活圏を形成していくことは、中山間地域にとって非常に有効なことで求められていることであると思いますが、問題意識として、そもそも人口が少ない中山間地域であること自体がコンパクトな生活コミュニティを形成しづらい要因となっているのではないかなと感じました。 まずは、地域外からその地域に興味を持ってもらうことで関係人口を創出し、生活圏を形成していくために必要な人材や資金が整えることが大切なのではないかと思えます。</p>	<p>御意見いただきましたとおり、過疎地域は、地理的に広域かつ急峻な場合が多く、集落や住居が点在しているため、都市部と比べてコンパクトな生活圏を形成しづらい条件にあります。加えて、人口減少下においては、これまで事業者や単独の集落によって支えられてきた活動や機能が、現状のやり方では維持できなくなるケースが増える恐れがあります。 このため、基幹的集落において日常生活に必要な機能・サービスを確保していくとともに、地域内交通の確保による周辺集落・小規模集落との間のネットワーク化や、集落間の連携・補完、地域運営組織の形成・運営、既存の団体の活動の枠を超えた課題解決に向けた取組の促進などが、一層重要になると考えております。市町村とも連携しながら、これら取組をはじめた「宮崎ひなた生活圏づくり」に取り組んで参ります。 また、御意見いただきましたとおり、地域外から過疎地域に興味を持ってもらうことや、関係人口の創出は、地域の持続的発展のために重要であると考えております。本方針(素案)においても、34ページの「地域間交流の促進」等で関連する取組を盛り込んでおり、これらに基づき関係人口の創出に取り組んで参ります。</p>
3	<p><29、30ページ> 2 過疎地域持続的発展の基本的な方向 (1) 過疎地域持続的発展の基本的考え方 ②「くらし」</p>	<p>宮崎ひなた生活圏づくりによるくらしの維持については、成果をあげることが難しい問題だと思えますが、取組が進まなかった場合に問題点などについて知りたいです。</p>	<p>過疎地域における「くらし」の維持については、人口減少に伴う市場規模の縮小が加速する中、商店やガソリンスタンド、交通・物流、金融等のサービスを担ってきた事業者の撤退が進むことや、各分野で人材の確保が困難となるなど、安全・安心なくらしを支える土台がゆらぐことが懸念されます。 今後も更なる人口減少が見込まれておりますが、特に「くらし」の分野においては、人口減少下においても日常生活に必要なサービスや機能を維持し、住み慣れた地域に将来にわたって安心して住み続けられるよう、基幹的集落への機能集約と生活圏内のネットワーク化や、貨客混載等の「合わせ技」による効率化など、「宮崎ひなた生活圏づくり」の取組を地域や市町村等と連携しながら進めて参ります。</p>